

48 WHO 福祉用具重点品目リスト作成への協力

研究所福祉機器開発部 井上剛伸, 石渡利奈
企画・情報部企画課 西村陽子

WHO の調査によると、世界で福祉用具を必要としている人のうち、利用できているのは、その 1/10 しかないのが現状である。その改善を目指して、WHO では、Global Cooperation on Assistive Technology (GATE) という枠組みを作り、活動を行っている。その一つが福祉用具重点品目リストの作成である。2016 年 5 月 24 日の WHO 総会にて採択され、公開された (http://www.who.int/phi/implementation/assistive_technology/global_survey-apl/en/)。このリストは、世界各国での福祉用具の普及に関する政策や専門職の教育、サービス提供体制の構築等において、重点をおいて取り組むことを推奨する品目を示したものである。リストの作成は、文献レビュー、デルファイによる候補機器の選定、世界規模でのアンケート調査、コンセンサスマーケティングの段階を経て、実施された。国立障害者リハビリテーションセンターでは、WHO からの依頼を受けて世界規模でのアンケート調査(日本語訳の作成、国内での周知)、重点 50 品目を決定するコンセンサス会議への参加に協力した。

2015 年 12 月から 2 月にかけて、世界規模での、重点 50 品目を選定するためのアンケート調査が実施された。アンケートは 52 カ国語に翻訳され、インターネットを介して、回答する方式をとった。ここでは、デルファイにより選定された 100 品目の福祉用具が、種目別に示され、そこから重要と思うものに記しを付して回答するものであった。最大回答数は、対象障害別に設定され(移動:16, 視覚:9, 聴覚:7, コミュニケーション:4, 認知:9, 環境:5)、その合計は 50 品目であった。WHO からの情報によると、アンケートの回答は、161 カ国から合計 10,208 件寄せられ、日本からの回答は、399 件であった。

各種目の上位 3 品目は、移動(標準形手動車椅子, エルボークラッチ, 歩行器)・視覚(遠視用眼鏡, 近視用眼鏡, 白杖)、聴覚(耳掛け形補聴器, 挿耳形補聴器, 聴覚支援用具用バッテリー/充電器)、コミュニケーション(コミュニケーションボード, 対話用ソフトウェア, 頭部装着式マウス)、認知(携帯用コンピュータ, 簡易携帯電話, 服薬支援用具)・環境(床ずれ防止用マットレス, 可搬式スロープ, 手すり)であった。また、日本からの回答を集計した結果の各種目の上位 3 品目では、移動の短下肢装具や電動車椅子、聴覚の火災・煙報知器、コミュニケーションの入力支援ソフトウェア、認知の GPS 位置情報表示機器、環境の床ずれ防止用クッションが、全データでの上位 3 品目にはない項目であり、日本の特徴を示していた。

今後、このリストを基に、福祉用具の世界規模での普及に向けた取り組みが展開される予定である。日本としては、専門家の教育や、政策・サービス提供体制に関する底上げへの協力が期待される。また、認知機能支援機器に関しては、国内での開発・普及の促進が望まれるところである。また、このリストは、世界規模での普及を考えた際に、最初に取り組むべき 50 品目の福祉用具を示したものである点を注記する。